

第 32 回練馬区新人演奏会出演者インタビュー

【ピアノ部門優秀賞受賞】

黒崎拓海(くろさきたくみ)さん



今年の 5 月 28 日、6 月 25 日に行われた第 32 回練馬区新人演奏会出演者選考オーディションでピアノ部門優秀賞を受賞した黒崎拓海さんにピアノとの出会いから練馬区新人演奏会等についてお聞きしました。黒崎さんは現在、東京藝術大学大学院修士課程1年生に在学中です。

ーピアノとの出会いは？

ピアノは5歳から始めました。兄弟がピアノを習っていたので、一緒にレッスン通っていました。自分にとって難しい曲を弾くことに喜びを感じていたため、難しくても良い曲を弾きたいと思っていました。

ーピアノの魅力って、どのようなところでしょうか？

音域が広く、1人で色々なことができる場所です。1人でオーケストラのようにも弾けるし、色々な楽器と一緒に演奏する機会も他の楽器に比べてたくさんある場所です。

ー第 32 回練馬区新人演奏会出演者選考オーディションを受けるきっかけは？

学内での掲示を見て知っていましたが、練馬区以外の方が受けられるようになったということで、先生にも勧められて応募しました。一流のオーケストラと共演できる場所にとっても魅かれました。

ーピアノ部門と金管楽器部門は、練馬区外の方が受けられるようになって今回が初めてのオーディションでした。ピアノ部門応募者 52 名の中から優秀賞を受賞されたのが黒崎さんです。オーディションの申込みからオーディションを受けてみて、どのような印象や感想をお持ちですか？

一次審査の課題曲※はこのオーディションのために用意したということもあり、当日は緊張しました。

他のオーディションの課題曲では、バッハの平均律が使われることが多いという印象があったので、今回の曲が課題曲に出るのは珍しいなと思いました。

日常的に、学校の課題等色々なことが重なるので、今回のオーディションを受けるためにも、なかなか時間が取れませんでした。本番に向けて仕上げ、一次審査に望みました。

二次審査当日、僕のメインの曲はベートーヴェンのピアノソナタ第30番作品109ホ長調だったので、他の参加者はロマン派や近現代のものが多く、すごく難しい曲で聴きごたえのあるものばかりでした。他の参加者の演奏をモニターで見ながら、皆さん良く弾けていたのでレベルの高さを感じ、「ああ、大丈夫かな」という気持ちになりました。また、ベートーヴェンのピアノソナタ第30番作品109ホ長調は、この日初めて外でお聞かせする曲でもあったので、ドキドキしました。

※黒崎さんは一時審査で課題曲中のから J.S.バッハ／パルティータ第2番ハ短調 BWV826 とショパン／12の練習曲作品10-1を演奏されました。

―第32回練馬区新人演奏会の演奏曲にチャイコフスキー「ピアノ協奏曲第1番」を選ばれていません。この曲を選んだ理由は？

数あるピアノの曲の中で、特に好きな曲のひとつで、チャイコフスキーを弾けるならこの曲と決めていました。

中学生のとき、先生から初めてピアノコンチェルトのレッスンをするからと言われて、持って行ったのがこの曲でした。それ以来ずっとこの曲をオーケストラと弾きたいと思っていました。

―この曲の聴きどころはどんなところですか？

チャイコフスキーは、民族的な音楽を引用しているところがあり、民族的なところがお客様に感じられるように弾けたらいいなと思います。

―オーディションで優秀賞を受賞して新人演奏会に出演が決まった際に、周囲の方々はいかがでしたか？

両親と先生が喜んでくれました。

―新人演奏会への意気込みを教えてください。

東京フィルハーモニー交響楽団と指揮者の上野先生と一緒に演奏できる素晴らしい機会をいただいたので、お客様に楽しんで聴いていただけるように頑張ります。自分自身では、オーケストラとちゃんとひとつの音楽にできたらいいなと、ちぐはぐにならないように、オーケストラと一緒にひとつの音楽を作り上げていきたと思っています。

—新人演奏会出演者選考オーディションでは、オーケストラと一緒に演奏ができるかどうかという点も選考に含まれています。「ひとつの音楽を作り上げたい」というお話しを聞き、主催者としても大変うれしく、楽しみです。

今回の演奏会では、ご希望いただいた練馬区内の小中学生とその保護者を招待しています。小中学生が会場にいて、思うことはありますか？

クラシックを聴く機会が少ない方もいると思うので、クラシックのコンサートを見る機会としてすごく良いと事業だと思います。

—演奏会が終わった後、自分にご褒美をあげるとしたら、どんなご褒美ですか？

旅行です。実際、旅行にはそんなにいきませんが、好きです。今はピアノの講習会に行った後、ちょっと行くくらいです。旅行だけで楽しめるといいですね。

—好きな演奏家または好きな曲を教えてください。

もうすでに亡くなっていますが、エミール・ギレリスが好きです。ミハイル・プレトニョフも好きです。以前、チャイコフスキーのピアノのCDがあり、聴いていましたが、その演奏者がたまたまギレリスでした。好きになったのはその後でしたけど。

—将来、どのような演奏家になりたいですか？

お客様に共感していただけるような演奏家になりたいです。共感というのは、自分の演奏を聴いていただいて、いろいろな感情を共有できればと思います。お客様が知らない曲でもピアノの演奏で場面が見えてくるというか、表現ができればと思います。

—音楽の中に見えてくる場面とは、作曲家がその曲の中に描いた場面というイメージですか？

例えば、標題音楽だったり、作曲家が意図して「ここはこういう様子」というように場面を作られたとしたら、自分の演奏でその場面がちゃんと見えてくるような演奏をしたいです。作曲家をリスペクトして、作曲家が意図するところを飲み込み、自分のものとして自然にそれを表現したいです。それは個性でもあるし、人それぞれ違って、同じものにはならないと思います。

—今回練馬区の新人演奏会ということで、「練馬」と聞いて思い浮べるものを教えてください。

「練馬文化センター」です。あと、武蔵野音楽大学がある区というイメージです。練馬交響楽団があることも知っていました。

一では最後に、今回のインタビューで伝えたいこと等がありましたら、お聞かせください。

練馬区の音楽の発展に貢献できればと思っています。

<インタビューを終えて>

今回の新人演奏会出演者選考オーディションは、一次審査通過者が12名でした。二次審査の課題は「20分以上30分以内の自由曲」だったので、自分以外の参加者が演奏する曲は、当日会場に入って初めてわかる状況でした。インタビューする中で、黒崎さんの二次審査の日の不安がよく伝わってきました。演奏家として、常にお客様に演奏を通じて何をどう伝えるかについてまっすぐに向き合っている姿勢を強く感じました。